

スポーツの心を伝えるボランティア

マナーキッズ テニス教室

スポーツの目指すものは身体を鍛えることだけではなく、挨拶や礼儀作法の基本的マナーの習得やスポーツマンシップの体得である。

しかし、昨今は勝負一辺倒の観が無きにしてもあらずで、強ければ何でも許容され、マナーや対戦相手に対する思いやりは置き去りにされている風潮がある。

そこで、幼い頃からテニスの技術体得に併せてマナーの習得に存在意義を見出さなくてはならない。この幼児・児童を対象にしたプロジェクトは全国に展開していく計画であり、物・資金面で支えるのは社会貢献活動に積極的な企業であり、人材面では財団法人日本テニス協会をはじめとするテニス経験者や保護者といったボランティアが支えている。また、文部科学省をはじめとする教育界やマスコミも後援している。

この幼児・児童とともに楽しみながらできる活動は、勤労者にとって参加しやすく魅力あるプログラムと考え、ご紹介させていただく。(取材・文/竹谷 隆)

杉並区教育委員会社会教育スポーツ課学校支援係主任の小林淳さんと地域の教育力に因って意見交換をした際の情報に基づき、幼稚園・小学校マナーキッズテニスプロジェクトディレクターの田中日出男さんから詳しくお話を伺った。



握手で修了証書をもって満足的笑顔

段気にしているのに忘れているものを気づかされたような気がします。姿勢を正しく、挨拶をきちんと、人の話はちゃんと聞く、相手のことを思いやる、感謝の気持ち等々当たり前のことですが、何となく自分の子も周りの子も徹底できずにきているのでしようか。子どもにこうなってほしいと求めるだけではなく、親もお手本とされるように向上心を持って学び、子どもに伝えることが大事ですね」と語る。なお、本教室では「スポーツの心やテニスの心」を書いた書籍の感想文を児童は提出する。そして、保護者には鈴木さんによる「人としてのマナー」の話を聞いてもらう。

ウィンブルドンへのマナーキッズテニス大使の派遣

田中さんによると、「昨春以降本年の1月時点で50回余開催しており参加園児・児童数は約4000名になる。

日本テニス協会
ホームページ
<http://www.jta-tennis.or.jp/kidstennis/>



無心でテニスに熱中

これにテニス経験者や保護者のボランティアが毎回20~50名ぐらい参加している。本プロジェクトでは昨年12月に全国大会を開催して、小学校高学年の中から男女3名ずつを、試合の結果だけでなく、マナー、感想文、運動能力により選抜して、本年6月に英国で開催される「ウィンブルドン・テニス大会」に派遣し、試合観戦とともに英国小学生との交流を図る。英国でもマナーの軽視が問題とされており、本プロジェクトは注目されている。

マナーキッズテニスプロジェクトへの期待

今後、全国の都道府県での展開が計画されているが、課題は指導者及び資金の確保、そして受け入れ先の幼稚園・小学校の理解であり、中でもボランティアの参加が最大の課題である。テニス経験のある勤労者は指導者として、ない人はボール集め等で、貢献できることからぜひ参加してみることをお勧めしたい。参加者は、「子どもたちの目の輝きがどんどん増し、礼儀にもテニスにも意欲的に取り組む姿勢が見られ、一日でとても成長したように感じられました」と保護者の感想にあるように、子どもの心身の育成に大きな役割を果たす活動の一翼を担える喜びを実感することができるだろう。